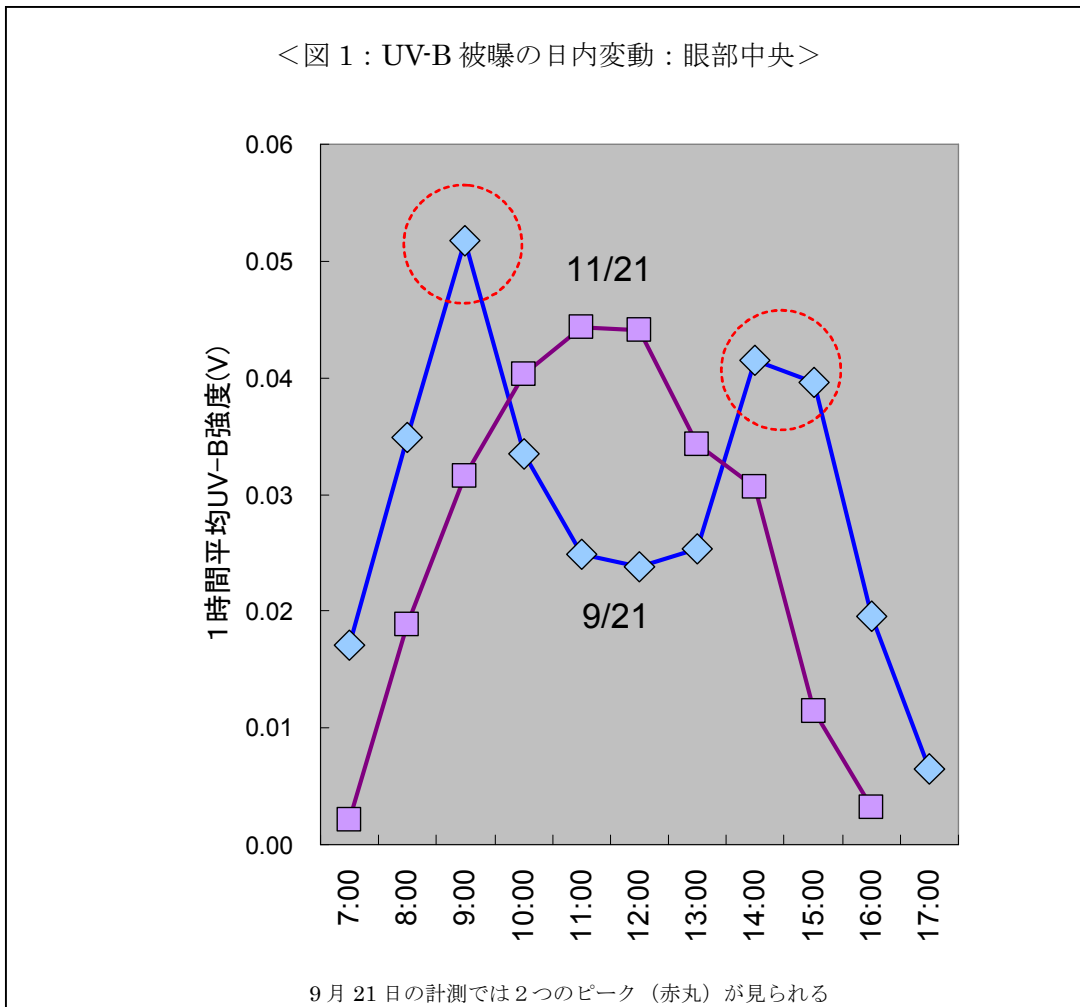


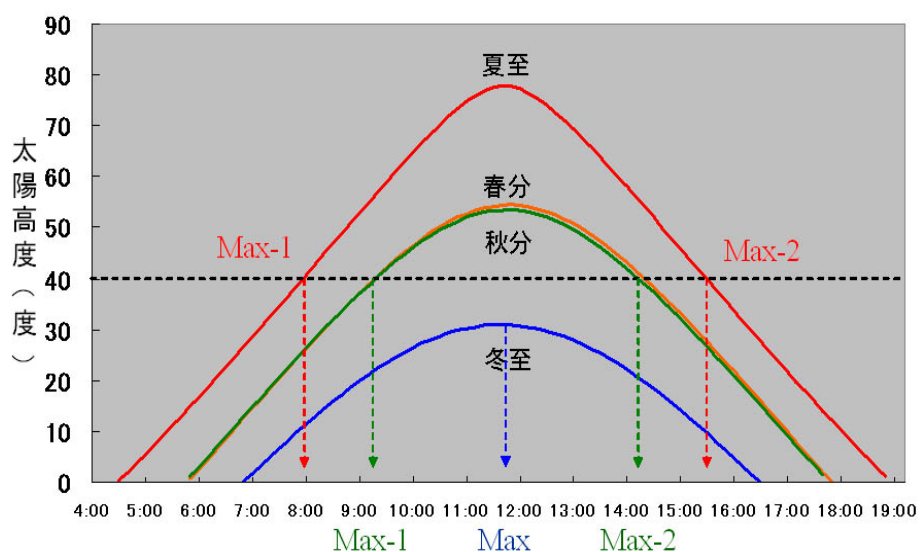
■ 春・夏・秋における、眼部の紫外線被曝量 (UV-B) は、朝・夕が日中の 2 倍

9月21日(太陽の南中高度:54.2度)の紫外線計測において、1日の眼部被曝強度の推移を見ると、午前9時頃と14時から15時頃が高い値(約0.04~0.05V)を示し、1日に2つのピークがあることが分かりました(図1)。一般的には、午前10時から14時といった日中の時間帯の紫外線対策が重要であると言われています。実際に肌に関しては、その時間帯の被曝量が高くなります。しかし、眼に関して、日中の4時間は、約0.025Vの被曝強度となり、朝夕のピーク値の約半分であることが明らかになりました。また、11月21日に同条件で計測すると、正午頃(太陽の南中高度:33.6度)が最も高い数値を示し、ピークは1つでした。

これは、太陽高度と視線の方向(角度)、顔面・頭部の形状などの関係から相対的に起こる結果です。平均的に15度下を向いている眼に届く紫外線が最も強くなる太陽高度は、このマネキン(20歳代の東洋人女性をモデル)の場合、約40度でした。それ以上に太陽高度が上がると、眼に届く紫外線は少なくなります。これを金沢での太陽高度で見ると、春分一夏至一秋分の時期では、午前8時から9時半頃と14時から15時半頃の被曝強度が高くなり、この時期において、朝だけではなく、夕方の時間帯にかけても眼への紫外線対策が重要となることが明らかになりました(図2)。



<図 2：季節と最大 UV 被曝時間帯>



太陽高度が 40 度で、眼部の被曝強度が最大になると仮定した場合、春分～夏至～秋分の時期では、朝と夕の 2 回、紫外線の眼に届く強度が高くなる時間帯があります。

(太陽高度は金沢の値)

<紫外線カットコンタクトレンズも用いて目の紫外線対策を！>

現在、国内におけるコンタクトレンズ使用者は約 1,800 万人とされています。コンタクトレンズ業界のリーディングカンパニー、ジョンソン・エンド・ジョンソンの使い捨てコンタクトレンズ「アキュビュー」シリーズは、その全ての製品にベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤を配合しており、紫外線 B 波を 97%以上、紫外線 A 波を 81%以上、カットします。(Johnson & Johnson, VISION CARE INC.データより)

- コンタクトレンズは高度管理医療機器です。必ず事前に眼科医にご相談のうえ、検査、処方を受けてお求めください。
- ご使用前に必ず添付文書をよく読み、取扱方法を守り、正しく使用してください。●UV 吸収剤を配合したコンタクトレンズは、UV 吸収サングラスなどの代わりにはなりません。

※1 J&J 調べ